

【研究分担課題名】日本在住 MSM の PrEP（曝露前予防）に関する意識や行動に関する研究

研究分担者：生島 嗣（特定非営利活動法人ふれいす東京・代表）

研究協力者：山口正純（武南病院、ふれいす東京）、三輪岳史（ふれいす東京）、大槻知子（ふれいす東京）

研究要旨

本分担研究では、PrEP に関する正しい情報発信のプラットフォームをコミュニティで整備することを目的に、MSM を対象としたアンケート調査を行った。PrEP の認知度や服用経験者の割合は昨年度研究より増加している可能性が示唆された。使用者は国内外からインターネットを介しての購入が約 8 割を占めていた。また、PrEP 使用に際して医師の診察を受けていない回答者の割合が約半数を占めていた。より安全に PrEP を提供するために、情報提供、利用しやすい見守り医療機関の整備が急務である。

A. 研究目的

本分担研究では、PrEP に関する正しい情報発信のプラットフォームをコミュニティで整備することを目的に、日本の MSM コミュニティを対象とした PrEP の認知度、利用意向性、コロナ禍における課題等に関する意識調査を実施した。

B. 研究方法

本研究では、昨年度の実験研究を参考に、MSM を対象とした無記名自記式アンケート調査を行った。アンケート調査は、MSM 向けの GPS 機能付き出会い系アプリの利用者を対象として実施した。

倫理的配慮

調査実施にあたり、ふれいす東京倫理委員会にて審査を受け承認を得た。

C. 研究結果

回答開始者は 8,131 人で、そのうち矛盾回答者等の 281 人を除いた 7,850 人を解析対象とした。尚、無回答も許容しているため、詰問によって分母が異なる。回答者の平均年齢は 38.4 歳で、15～39 歳が半数以上（53.5%）を占めていた。PrEP の認知度は 57.1%（3577/6266）であり、PrEP に関する知識に関しては、「PrEP を服薬していても HIV 以外の性感染症にはかかってしまうので、コンドームの使用が大切である」という質問の正答

率は 97.3%（5876/6036）であった。一方、「HIV 感染の予防のために PrEP を使用した場合、コンドーム使用にどう影響すると思いますか？」という質問では、「コンドームを今より使わなくなると思う」を選択した回答者は 43.8%（1986/4538）にのぼった。PrEP を始めた理由としては、「相手に頼らず予防したかったから（64.3%、337/524）」、「HIV 感染が気になってセックスを楽しめなかったから（63.0%、330/524）」、「多数の相手とセックスをするから（61.8%、324）」が最も多かった。PrEP を始めて良かったと思うことについては、「セックスに対する不安が減った（77.2%、404/523）」と「HIV 感染を気にせずにセックスを楽しむことができるようになった（65.8%、344/523）」が最も多かった。

PrEP の服用経験（現在/過去）がある回答者は全体の 8.8%（546/6230）であった。PrEP の入手方法は国内外からの個人輸入が 81.0%（423/522）を占めていた。また、PrEP 使用者の 52.8%（276/523）は定期的な医師の診察を受けていなかった。「新型コロナウイルスの流行によって、あなたの PrEP 使用にどのような影響がありましたか？」という質問に対しては、41.5%（212/511）が「特に影響はない」と答えている一方で、38.2%（195/511）が「海外からのジェネリック薬の入

手が難しくなったり、注文してから届くまでに時間が掛かるようになったりした」と回答していた。HIV 検査に関しては、68.6% (4521/6593) の回答者は生涯受検経験があると回答しており、直近の検査場所は保健所が 48.6% (2158/4444)、医療機関が 33.3% (1478/4444) で最も高かった。検査頻度に関しては、1年に1回以上検査を受けていると回答した人の割合は 48.3% (1875/3884) であった。新型コロナウイルスの流行による検査頻度の影響を聞くと、変わらないが 67.0% (2043/3048) である一方で、減ったと回答した者は 29.8% (907/3048) にのぼった。その要因を訊ねると、「セックスをする相手の人数が減った」が 45.4%(409/901)で、「保健所/検査所やイベントなどでの HIV 検査が休止/中止していたから」が 42.2%(380/901)であった。

2018 年の研究では、PrEP の認知度は 36.3% (1719/4735)、服用経験がある回答者は全体の 2.2% (116/5222) であったため、約 2 年で PrEP に関する知識やインターネットでの購入方法が MSM の間で広がりつつあることが示唆された。HIV 検査は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けており、検査へのアクセスを改善する必要が示唆された。さらに、医師の診察を受けていない PrEP 使用者は依然として半数以上であるため、国内での PrEP 使用者に対応可能な医療機関の体制整備も急務であることが示唆された。

E. 結論

今後はクロス集計や統計検定を行い、昨年度のデータとの差や複数因子の関連について詳しく分析していく。また、MSM などがより安全に PrEP を提供するために、有効な情報を当事者や医療機関向けに web 上で発信する。

G. 研究発表

なし

H. 知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）

なし